

令和4年度 日本橋幼稚園 自己評価報告書

幼稚園名：中央区立日本橋幼稚園 所在地：中央区日本橋人形町1-1-17
 園長名：児玉 大祐
 幼児数：77名 学級数：4学級 教員数：5名

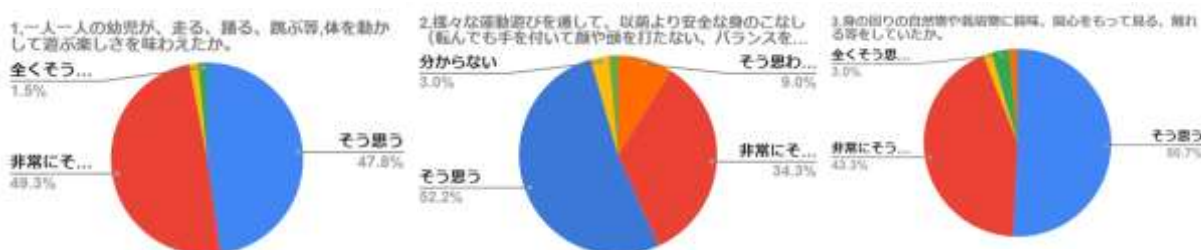
1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標に対する評価は以下の結果であった。

回 答： 保護者77人中 67人回答（約86%） 実施時期：12月

保護者から、全ての目標において「全くそう思う」「そう思う」を合わせて約9割、達成しているとの回答を得た。

○重点目標Ⅰ 心身ともに健康で、自分らしさを素直に表現できる『げんきな こ』を育む。

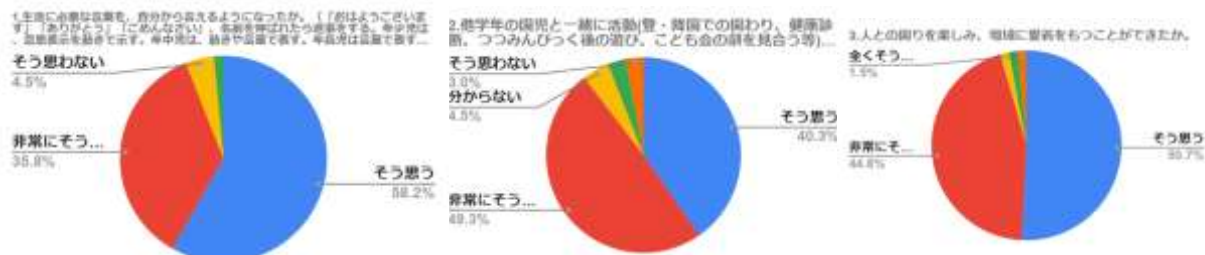


「様々な運動遊びを通して…」では、昨年度の評価で、幼児の身のこなしの変化に対して、教員と保護者ともに感覚の違いがあった。そのため、今年度は、保護者が幼児の動きの変化を体感できる、「親子運動遊び」の日を6月と11月に行った。また、同じ時期に幼児の足型を取り、実態を知らせ足に合った靴の選択や歩く必要性を保護者と共有した。知らせた後、上履きが足の大きさに合ったもの変わった幼児が多く見られ、走っている途中で、上履きが脱げる姿が減った。

その結果、保育参加のアンケートでは、6月に比較して11月には、幼児の動きがよくなったことや持久力が上がった意見が多く出された。足型については、短期間で劇的な変化は見られにくかったが、土踏まずの深さや足型が変わってきている幼児が見られた。

世話した野菜を幼稚園で会食できるようになり、みんなで食べる野菜の味を楽しめることで、植物の生長に興味関心が高くなったことを評価された。

○重点目標Ⅱ 優しく思いやりがあり、友達と仲良く遊びに取り組む、『やさしい こ』を育む。

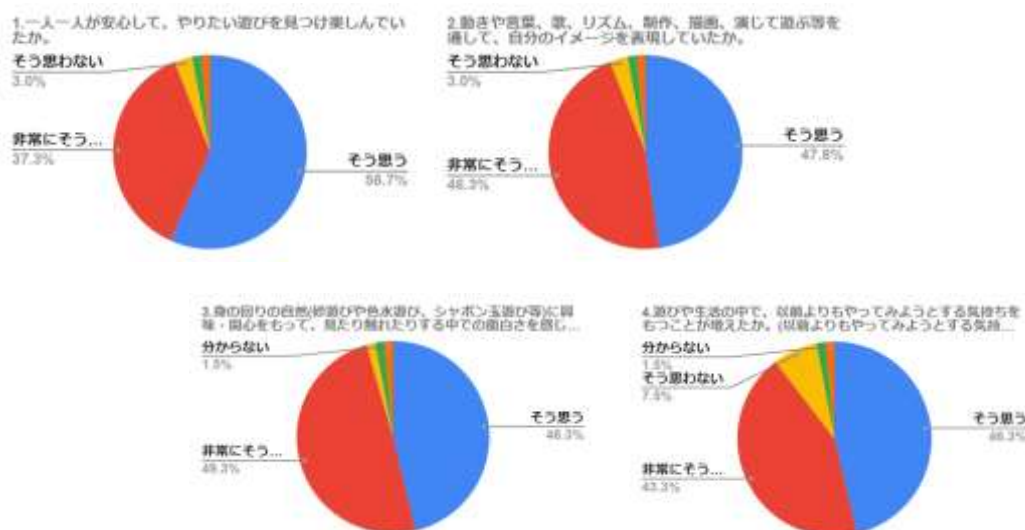


「生活に必要な言葉を…」では、挨拶を始め生活に必要な言葉を引き出していく援助を、今年度も大切にしてきた。その結果、幼児が使い慣れていない言葉が「貸してください」や、「行ってきます」であることが顕著になった。意識して幼児に知らせるとともに、言葉を引き出していく必要性を、継続して保護者に啓発していく。そして、大人である教員・保護者が手本を示すこと

の大切さを、今後も意識して実践していく。

ホームページ掲載に加え、6月より導入された園務支援システムのオンライン配信により、「他学年の幼児と…」では、意図的に計画した園内での他学年との交流や、小学生との交流を適時に配信してきた。また、「人との関りを楽しみ、地域に愛着をもつことができたか」では、園内研究と絡めて計画的に地域に出かけ、人との関りを大切にし、地域に目が向くように働きかけてきた。そのことで、幼児から「今度は、ここに行ってみたい」の発言が聞かれたり、家庭でも幼稚園で出かけた場所に親子で訪ねたりする姿に繋がった。それらが、「そう思うより」より「非常にそう思う」への評価になったと考える。

○重点目標Ⅲ自分で考えて行動し、最後までやりぬく努力をする『かんがえる こ』を育む。



『かんがえる こ』の評価指標を、具体的な姿から評価してもらっていることで、評価が高い。「遊びや生活の中で…」では、昨年度の反省から、評価指標に学年毎の具体的な姿を表記した。その結果、「非常にそう思う」の評価が上がったことは成果である。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

「家庭への連絡や情報の提供に努め、すすんで子育て支援を行い、家庭とともに幼児を育てる」では、「十分に達成している」「達成している」の評価を高く受けているが、改善を要する評価も見られている。社会の風潮と学校現場の感染症対策の意識の差がみられ、保護者の多様化する価値観の表れと考える。可能な範囲で、保護者の思いに寄り添い、改善できることは考えていく。

3 今後の改善方策

ホームページの定期的な更新、降園時、保護者会、学級懇談会、オンラインを活用した、適時、情報発信に今後も努め、幼稚園教育の理解を促す。また、保護者が教育内容を理解しやすい保育参加の機会をつくり、発信内容の工夫と精選を図る。